

## ステレオガイド下マンモトーム検査

石灰化を生ずるものには、良性疾患と悪性疾患の両方あります。前述のようにその形態や分布からカテゴリー分類を行い良悪性の鑑別を行います。カテゴリー3以上の場合は、まずは超音波による精査を行ないます。超音波検査にて石灰化病変が描出可能な場合は、超音波で病変を確かめながら細胞診・針生検などを行ないます。超音波で石灰化病変が描出困難な場合は、ステレオガイド下マンモトーム生検の適応となります。

マンモトーム生検は針生検の方法のひとつです。吸引にて針の中に引き込んだ組織をカッターで切り取り、円筒状に摘出します。針を抜き刺しすることなく、1回の穿刺で多方向・複数の組織を採取することが出来ます。マンモグラフィの撮影機械と組み合わせ、ステレオ撮影を利用することで、マンモグラフィ上で指定した部位の乳腺のみを採取することが可能となります。これは、良悪性の鑑別が必要な石灰化病変の診断に有用です。特に非浸潤性乳管がんの診断に有効です。検査は局所麻酔を併用して行ないます。また、石灰化病変がマンモトームでとりきれってしまった場合には、小さなクリップを留置して切除した場所のマーキングをします。